

平成三十一年度入学者選抜試験問題 国語

- 注意 1 解答は、答案用紙の指定欄に記入しなさい。
- 2 開始の指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
 - 3 この問題冊子は、9ページまであります。問題冊子・答案用紙の印刷の不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
 - 4 この問題冊子は、試験終了後持ち帰ってください。

— 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

国際会議で外国に行くと、観光客の急増に驚く。パリやニューヨークはもちろん、ベルート、バンコク、北京などもそうだ。「マナーの悪い観光客に困っている」という話はどこでも聞いた。

国連世界観光機関(UNWTO)の統計では、2000年から17年に世界の国際観光客到着数は2倍に増えた。17年は7%の「高度成長」ぶりだ。昔より航空券も安いし、ネットで簡単に予約できるのだから当然だろう。

16年のランキングだと、日本は国際観光客到着数で世界16位。ただし増加率が高く、12年から17年に3倍以上になった。今や観光は日本第5位の産業だが、多すぎる観光客のせいで「観光公害」が出ているという声もある。

なぜこれほど急に増えたのか。アジアとくに中国が経済成長し、近場の日本が観光先になったことも一因だ。だが私が世界各地を訪ねた経験からいうと、別の理由がある。観光客から見れば、日本は「安くておいしい国」になったのだ。

ここ20年で、世界の物価は上がった。欧米の大都市だと、サンドイッチとコーヒーで約千円は珍しくない。香港やバンコクでもランチ千円が当然になりつつある。だが東京では、その3分の1で牛丼が食べられる。それでも味はおいしく、店はきれいでサービスはよい。ホテルなども同様だ。これなら外国人観光客に人気が出るだろう。1990年代の日本は観光客にとって物価の高い国だったが、今では「安くておいしい国」なのだ。

なお00年から16年に、フランスは国際観光客数が7%しか伸びていない。それに対し、日本は40%も伸びている。国際観光客数ランキング30位までの国で400%以上伸びたのは、日本・インド・ハンガリーの三つだ。この三方国は、外国人観光客からみて「安くておいしい国」だといえるだろう。

このことは、日本の1人当たりGDPが、95年の世界3位から17年の25位まで落ちたことと関連している。「安くておいしい店」は、千客万来で忙しいだろうが、利益や賃金はあまり上がらない。^①観光客や消費者には天国かもしれないが、労働者にとっては地獄だろう。

元経済産業省カントリーヨウの古賀茂明はこう述べる。「日本には、20代、30代で高度な知識・能力を有する若者が、高賃金で働く職場が少ない。稼げないから、食べ物も安くなるのだらう」。古賀は米国で経営学修士を取ってキギョウした若者のこんな声を紹介する。「日本に帰る理由を考えただけ、一つもなかった。強いて挙げれば、そこそこおいしいご飯が夕夕同然で食べられることかな。アメリカだと、日本の何倍もするからね」

② 一方で日本では、観光客だけでなく留学生も増えた。12年度の約16万人が、17年度には約27万人だ。もともと世界全体でも00年の約210万人が14年の約500万人に伸びてはいるが、これまた日本の増え方には特徴がある。

福岡日本語学校長の永田大樹はいう。「世界で活躍するには英語圏への留学が有利だが、日本は非英語圏で、日本語習得は難しい。それでも留学生が集まるのは、『働ける国』だからだ。日本では就労ビザのない留学生でも週に28時間まで働ける。だが米国では留学生は就労禁止だ。独仏や豪州、韓国は留学生でも就労して生活費の足しにできるが、日本より時間制限が厳しい。そのため「日本に来る留学生の層は、おのずと途上国からの『苦学生』が多くなる」という。

いま日本では年に30万人、週に6千人の人口が減っている。17年末の在留外国人は前年末から7%増えたが、外国人の労働者で就労ビザを持つ人は18%。残りは技能実習生、留学生、日系人などだ。受け入れ方が不透明なので、労災隠しなどの人権侵害も数多い。こうした外国人が、コンビニや配送、建設、農業など、低賃金で日本人が働きたがらない業種を支えている。

いま政府は、産業界の要請に応じ、実習生の滞在期間を延長したうえ、留学生の就労時間延長も検討している。その一方、政府が促進してきた「高度人材」のユウチは停滞したままだ。アジアの経済成長にトモナイ、実習生の募集は年々厳しくなっている。外国人で低賃金部門の人手不足を補う政策は、人権軽視であるだけでなく、早晚限界がくるだろう。

③ 外国人のあり方は、日本社会の鏡である。外国人観光客が喜ぶ「安くておいしい日本」は、労働者には過酷な国だ。そしてその最底辺は、外国人によって支えられているのである。

私は、もう「安くておいしい日本」はやめるべきだと思う。客数ばかり増やすより、良いサービスには適正価格をつけた方が、観光業はもっと成長できる。牛丼も千円で売り、最低賃金は時給1500円以上にすべきだ。「そんな高い賃金を払ったら日

本の農業や物流や介護がつぶれる」というなら、国民合意で税金から価格補助するか、消費者にそれなりのタイカを払ってもら
うべきだ。そうしないと、低賃金の長時間労働で「安くて良質な」サービスを提供させるブラック企業の問題も、外国人の人権侵
害も解決しない。デフレからの脱却もできないし、出生率も上がらないだろう。

日本の人々は、良いサービスを安く提供する労働に耐えながら、そのストレスを、安くて良いサービスを消費することで晴ら
してきた。そんな生き方は、もう世界から取り残されている。

(小熊英二「安くておいしい国」の限界」による)

※ 本文中の数字の表記は、漢数字、算用数字、縦書き、横書き等が混在しているが、全て、原文に拠っている。

問1 傍線部 a から e までのカタカナを漢字に直さない。

問2 第三段落において筆者は、日本における観光について、数値に基づく三つの情報を提示している。三つの情報のうち筆者が最も重視している情報は何か、またなぜその情報を重視するのか、両者について説明しなさい。

問3 傍線部①に「観光客や消費者には天国かもしれないが、労働者にとっては地獄だろう」とありますが、筆者は「天国」と「地獄」という言葉によって、どのようなことを言おうとしているのか、説明しなさい。

問4 傍線部②に「一方で日本では、観光客だけでなく留学生も増えた」とありますが、筆者はなぜこの二つのタイプの外国人を並べてとりあげているのか、説明しなさい。

問5 傍線部③に「外国人のあり方は、日本社会の鏡である」とありますが、筆者はこの一文を通して何を言いたいのか、これまでの日本人の生き方や日本社会のあり方に言及しつつ、説明しなさい。

一 次の記事を読んで、あとの間に答えなさい。父の兼雅(おとど・殿・大将・大将殿)に知られることなく、母(北の方)と二人で暮らしていた仲忠は、十二歳のときに、母とともに父のもとに引き取られました。

かくて後、おとど、一条殿^①にあからさまにもおはせず、こと御心なし。大人二十人ばかり、うなる、下仕へなど、いと多く召し集めて、使はせてまつりたまふ。夜昼、昔のことを悔い、行く先のことを契り、あはれは飽かず^②思さるるままに聞こえ尽くしたまふ。

北の方、御歳^{とせ}三十に少し足らぬほどなる、御かたちただ今盛りにて、思はずことなくておはするまに、光を放つやうに見えたまふ。子はたさらにもいはず、この世の人にも似ず、いとありがたくたぐひなし。琴をばさらにもいはず、こと才も、さるべき師ども召して、笙、横笛も習はせたまふ。弾きものは、北の方さる上手におはすれど、琴のなかりしかばこそあれ、箏、和琴など習はしたまふ。御暇^{いとま}今はことにおはせねど、殿の出でたまへる隙などに、気色ばかりのこのさまを聞こえたまへば、いとすづれて弾きとりたまふ。何ごとも師に二度問ひたまはず。笛どももいとはなやかに心ありて、日には書を二、三巻も読み、琴、笛を五、六帖も吹き弾きとりたまへば、「大将は、いづくよりかかる子を探ね出でて、世のものの上手生ほし立てたまふらむ」といひののしる、名高くなりたまひぬ。京に率^ゑて出でたまひし三年がほどに、すべて世にせぬことなくなりぬ。大将殿、ただこれをかしづき思すよりほかのことなし。

十六といふ年、二月にかうぶりせさせたまひて、名をば仲忠といふ。上達部の御子なれば、やがてかうぶり賜ひて、殿上させせ、上も東宮も、召しまつはしうつくしみたまふ。上、大将に、「いづくなりし人を、かうにはかに、いと優にては取り出でられたるぞ」と問はせたまへば、「年ころははへるころも知りたまへざりし、ひととせ見いでてはべり。ものなど少し心得のち、交らひはせむと申ししかば、さもはへることなりとて、籠めはべりつるなり」と

たまふ。

『うつほ物語』俊蔭巻による

注 一条殿―兼雅の本宅。

大人・うなる・下仕へ―いずれも兼雅が、仲忠親子のために集めた使用人。「うなる」は髪をう

なで束ねた子供。

琴―中国伝来の七弦の琴。

笙―管楽器の一つ。

琴―ここは弦楽器の総称。仲忠の母は、

仲忠に琴は教えたが、他の弦楽器は手元になかった。そこで、兼雅の元に引き取られたのを機に、新たに箏(十三弦の琴)と和琴(六弦の琴)を習わせた。

帖―ここは曲を数える単位。かうぶり―元服。同じ行の下にある「かうぶり賜ひ

て」は、五位に叙せられること。

上―天皇。

問6 傍線部①「あからさまにも」、傍線部⑥「うつくしみたまふ」を現代語に直しなさい。

問7 傍線部②「飽かず」、傍線部③「見え」、傍線部⑧「心得て」のなかに含まれる動詞の終止形を、ひらがなで書きなさい。

問8 傍線部④「かかる子」は、人々が仲忠のことを「こんなに優れた子」と褒めたものです。どのような点が優れていたと書かれていますか、具体的に説明しなさい。

問9 傍線部⑤「ただこれをかじつき思すよりほかのことなし。」、傍線部⑦「年ごろははべるところも知りたまへざりし、ひととせ見いでてはべり。」を現代語に直しなさい。

問10 空欄⑨「たまふ」に入れるのに最もふさわしい語を、次のA～Eの中から選んで、記号で答えなさい。

A 言ひ

B 問ひ

C 仰せ

D 申し

E 奏し

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。なお、設問の関係で、返り点・送り仮名を省略した部分があります。

莊子行^キ於^ニ山中^ニ。見^ル大木^ノ枝葉盛茂^ス。伐^ル木者^ヲ止^マ其^ノ旁^ニ而^レ不^レ取^ラ也。

問^ニ其^ノ故^ヲ曰^ク無^レ所^レ可^キ用^フ。莊子曰^ク此木^ヲ以^テ不^レ材^ヲ得^レ終^ニ其^ノ天^年。莊子

出^テ於^ニ山^{ヨリ}舍^ニ於^ニ故^ノ人^ノ之^ニ家^ニ。故^ノ人^喜命^ニ豎^子殺^レ雁^而烹^之。豎子請^{ヒテ}曰^ク

其^ノ一^ハ能^ク鳴^キ其^ノ一^ハ不^レ能^ハ鳴^ク。請^フ奚^ヲ殺^{サント}。主人曰^ク殺^{セト}不^レ能^ハ鳴^ク者^ヲ。明日弟

子問^{ヒテ}於^ニ莊^子曰^ク昨日^ノ山^中之^ノ木^ヲ以^テ不^レ材^ヲ得^レ終^ニ其^ノ天^年今^ノ主人^之

雁^ヲ以^テ不^レ材^ヲ死^ス。先生將^ニ何^ヲ処^ス。莊子笑^{ヒテ}曰^ク周^將処^夫材^与不^レ材

之^ノ間^ヲ。材^与不^レ材^之間^ハ似^テ之^ニ而^レ非^也。故^ニ未^ダ免^レ乎^ノ累^ヲ。若^キ夫^ノ乘^{リテ}道^徳而

浮^{スル}遊^上者^則不^レ然^ラ。無^ク譽^無訾^一龍^一蛇^与時^俱化^而無^ク肯^専為^一。

(『莊子』山木篇による)

注 莊子―戦国時代の思想家、莊周。宇宙の根本原理である「道」の重要性を説いた。 豎子―子供の召使い。 雁―ここ

はガチヨウのこと。 似之而非―「材」と「不材」との間は、あたかも道に似ているが、真の道ではない、の意。 累―
わずらい。 道徳―是非、善悪などを超越した無為自然の道とその働き。 浮遊―浮かび漂う。ここは無我無心に自
然に身を任せること。

問11 傍線部A「此木以不材得終其天年」を現代語に訳しなさい。

問12 傍線部B「故人」の意味を説明しなさい。

問13 傍線部C「命豎子殺雁而烹之」を書き下し文にし、現代語に訳しなさい。なお、「烹は」に「る」と読みます。適宜活用させて
用いなさい。

問14 傍線部Dは「周は將に夫の材と不材との間に処らんとす」と書き下します。それに従って返り点と送り仮名を加えなさい。

問15 傍線部Eに「不然」とあるが、何と何がどのように違うと言っているのか。分かりやすく説明しなさい。

問 5	問 4	問 3	問 2	問 1	
				d	a
				e	b
					c

受 験 番 号

小 計 1

問 10	問 9		問 8	問 7	問 6
	⑦	⑤		②	①
				③	
					⑥
				⑧	

小計 2

問 15	問 14	問 13		問 12	問 11
	周 将 処 夫 材 与 不 材 之 間	(現代語訳)	(書き下し文)		

小計 3

受験番号